

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十九主日礼拝のしおり

2022 年 10 月 16 日

前奏

招きのことば：詩編 121 編 1-8 節

【都に上る歌】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。どうか、主があなたを助けて
足がよろめかないようにし まどろむことなく見守ってくださるように。
見よ、イスラエルを見守る方は まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方 あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃つことがなく 夜、月もあなたを撃つことがない。
主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはあなたに祈るように招かれています。イエス様が弟子たちに祈りをおしえてくださいました。イエス様がこのように祈りなさい、とおっしゃったとおりにいのる祈りは必ずかなえられます。私たちは祈りのことばによって私たち自身がどのような信仰をもっているか告白します。祈りのことばによって神様にはどんなことができると信じているか、が現れます。隣人をほんとうはどれほど大切に思っているのかも祈りのことばから知ることができます。神様、どうぞ私たちの信仰の祈りのことばを整えてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子供として 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第二手紙3章14節-4章5節

だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現とその御国とを思いつつ、厳かに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようになります。しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。

福音書朗読：ルカによる福音書18章1-8節

イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたし

をさんざんな目に遭わずにちがいない。』それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

讃美歌 501 番

- 1 生命のみ言葉 たえにくすし、見えざる御神の 旨を示し、仕えまつる 道を教う

※生命のみことば たえなるかな、いのちの御言葉 くすしかな

- 2 主イエスの御言葉 いと慕わし、普く響きて 世の巷に 悩む子らを 天(あめ)に招く ※

- 3 嬉しき訪れ たえずきこえ、赦しと和らぎ たまう神の 深き恵み 世に現る ※ **アーメン**

説教：「気を落とさず絶えず祈る」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

気を落とさないで絶えずいのちのように、イエス様はおっしゃいました。みなさんは気を落とすことはありませんか。がっかりすることです。希望を失うことです。ため息をつくことです。やっぱりな、と悪い予感が的中することです。いいかげんにしてほしい、と忍耐力に限界を感じる時です。イエス様は気を落とさないように、と言われました。しっかりしなさい、と言われます。ちゃんと立ちなさい、といわれます。元気を出しなさい、と言われます。人生にはいろいろなことがあります。思い通りにならないこと、思いがけずいやな目にあうこと、長い間がまんしなければならぬこと、もう願い続けないようにわりきってあきらめなければならぬこと、長い間願っても実現しないこと、避けて通りたいこと、隠し通したいこと、あなたの心にはどんなことが思い浮かんでいますか。

私たちの心には自分を守る働きがあります。本当に気を落としてしまわないように、自分で気付かないうちに心を守っています。自分はそんなに欲張りなことを考えてはいけなかったのだ、と自分を戒めます。そんな大それたことははじめから無理だとわかっていた、と自分に説明します。衝撃を受けないように感情を消してしまうこともあります。本当の気持ちを押し殺して自分でも自分が何を感じているのかわからないようになります。

イエス様は弟子たちに気を落とさず絶えず祈るようにたとえを用いて教えました。弟子たちが自分の気持ちを偽ったりごまかしたりしないで、何があってもまっすぐに神様を愛し、おそれ、信頼して祈るようにと励ましました。

イエス様のたとえは私たちが使うたとえとは少し違います。正反対のことを例に挙げます。悪い人ですらこうするなら、まして神様はなおさらそうするではないか、という言い方です。わ

るい裁判官ですらしつこく訴えるやもめの願いを聞くのならば、ましてや民を愛してやまない神様は速やかに選ばれた人々の願いをきくではないか、と言われます。ルカによる福音書 11 章には、人は悪いものなのに子どもが魚がほしい、というとき蛇を与える親はいない、ましてや神は求める者には天から聖霊を与えてくださるではないか、というお話の仕方と通じるところがあります。神様を神様としてあがめないという信仰のない人で、人を人とも思わない、血も涙もない裁判官であっても、私を苦しめる者を裁判でただしく裁いてほしいと、何度断つてもあきらめずに嘆願し続けるやもめがあまりにもうるさいので困り果ててしまったら、普通あきらめて裁判をしてくれるだろう。ましてや神様は常に祈り求める人の祈りを聞かないで放っておくことがあるだろうか。いや、決してそんなことはありません。速やかにさばいてくださいます。

気を落とさないで絶えず祈るように、弟子たちは命じられました。弟子たちはすぐにがっかりしやすく、またすぐに祈りを忘れてしまいやすいからでした。イエス様はご自分が再びおいでくださるときに、果たして地上で、気を落とさず祈り続ける信仰の人を見つけることはできるだろうか、と少し心配されています。

けれども苦難や困難は訪れます。神様にお祈りしても、望みの通りの祈りの答えが与えられないときがあります。私たちはそんなとき、いろいろな気持ちになります。どうして神様はこんな状態の中に私を放っておくのだろうか、私は神様に罰せられているのか、何か間違ったことをしてしまったのか。神様に愛されていると愚かにも思い込んでいたのではないのか、本当は神様は私に怒っているか、失望しているか、私のような者など相手にしてくれていないのではないのか。あるいはほんとうは神様は全能の方、なんでもできるお方ではなかったのかもしれないと疑います。いや、もう私には祈る気力もない、疲れてしまった。神様に熱心にお祈りしてきたけれど、少し気分を変えて、時間をおいてみようかな。

大切なことは、あなたが聖書の語るように、神様があなたを決して見放さず、決して見捨てない方であることを信じることです。ヨハネの第一の手紙 4 章 10 節には「私たちが神様を愛したのではなく、神様が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子イエス・キリストをおつかわしになりました。ここに愛があります」と記されています。また、9 節には「神様は独り子イエス様を世におつかわしになりました。イエス様によって私たちが生きるものとなるためです。」と記されています。テモテへの第一の手紙 1 章 15 節で使徒パウロは「キリスト・イエスは罪びとを救うために世に来られたということばは真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしはその罪びとの中で最たるものです」と告白しています。罪を悔い改めて、イエス様を信じて、洗礼を受けた者は、イエス様によって罪赦され、イエス様によって生きる者とされています。自分の身に何が起きても、神様の御手の中で安心です。辛いところを通ることがあっても、そのことを通して神様は私たちの信仰を鍛え、万事を益となしてくださいます。「神様はあらゆる苦難に際して私たちを慰めてくださるので、私たちも神様からいただ

くこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」とコリントの信徒への第二の手紙 1 章 4 節にあります。「あなた方を襲った試練で、人間としてたえられないようなものはなかったはずで、神様は真実なお方です。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練とともに、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださっています。」というコリントの信徒への第一の手紙 10 章 13 節のみ言葉は多くの人におぼえられています。

あなたは悔い改めてイエス様を信じて洗礼にあずかり、イエス様によって罪を赦され、神さまの子どもとされました。この事実に戻って、落ち着いて神様に信頼し、気を落とさずに絶えず祈りましょう。神様は神様のときに、私たちの思いを超えた神様のみわざを見せてくださいます。そして私たちはその経験を通して、さらに神様に信頼し、神様の聖名をあがめるように導かれます。

そうでしたら、私たちはもっと大胆に祈ろうではありませんか。神様の子どもなのですから。自分はだめなんじゃないか、やっぱり自分はだめなんだ、自分みたいなものはみんなと同じような信仰生活はできないのだ、自分はいいい気になって神様の子どもだなんて思っていたから足をすくわれたのだ。本当はよその子みたいなもので、まことの神様の愛をいただいているなんて思わない方がよい、と思わないでください。イエス様を受け入れた私たちは、神の子とされる特権を与えられているのですから。神様のみ旨にそわない幸せではない事態にいつも遭遇します。私が神様を神様としてあがめていないことに気付いたら、だからだめなんだ、と自分を責めるのではなく、赦して新しくしてくださる主に祈りましょう。どうぞ私を主をあがめる者と変えてください。私に間違いがあったのであれば、神様、教えてください。神様、イエス様によるあなたの赦しをいただき、人々に正しく償っていきます。ともだちの間違いがあるのであれば、神様、教えてください。愛をもって真実を語り、友を赦し、和解をします。世の中に間違いがあるのであれば、神様、教えてください。同じ心を持つ人々とともに、平和と幸せをつくり、御国が来るように祈ります。思いがけない災難に遭ったり、体の不調があるとき、神様、教えてください。その中で人を恨まず赦します。同じ間違いが起らないように工夫します。愛の心で情熱をもってあらゆる手段を探し出し、豊かに忍耐深く用いて、人々を助け、自分の体は主に委ねて、大切にしていきます。自分の使命が果たせず、ふがいない思いのときには、神様に知恵と力をいただくように求めましょう。新しい目で見えるようになり、新しい心が開けます。イエス様は私たちに、気を落とさずに、絶えず祈るように励ましてくださっています。

イエス様のたとえに出てきたやもめは、相手を裁いて私を守ってください、と自分を守ってもらうために裁判官に執拗に願いました。私たちは自分のためよりもむしろお互いのために祝福を祈りましょう。私たちは毎日、様々な使命を神様からいただいています。親として、子どもとして、兄弟として、家族の中であなたに与えられている使命は何でしょうか。たくさんあり

ますね。ひとつひとつ数え上げて自覚をし、喜びをもって幸せをともに作っていきましょう。
気を落とさず絶えず祈りましょう。

職場で、近隣で、友人の間で、あなたの使命は何でしょうか。何をするにも主に対して心を入れて使命を果たすことで、共に幸せを作っていきましょう。めんどくさい、と思ったり、そこまでする必要はない、と手加減したり、どうせ誰にもわかってもらえない、とすねてしまわないで、気を落とさずに、常に祈って前進しましょう。

教会での役割は何でしょうか。共に神さまの恵みにあずかるお互いのためにどんな役にたって祝福を与えることができるでしょうか。自分が認められたり、褒められたり、感謝されたりすることを目的としないで主のために励むとき、神様が独特の方法で報いてくださいます。気を落とさずに、常に祈って前進しましょう。

私たちはなかなか祈りが聞かれるように思わない現実のなかで、生きた神様の確かな赦しといのちにあずかって、神様がご自身の御子を犠牲にしてでもあなたを神様の子どもにしてくださいのですから、気を落とさないで、常に、人々の祝福を、イエス様のお名前によって祈り続けてまいりましょう。

「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。」 ルカによる福音書 18 章 7 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 191 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 いとも尊き 主は降りて 血のあたかもて 民をすくい
きよき住居(すまい)をつくりたてて その礎(いしずえ)と なりたまえり
- 2 四方(よも)の国より 選ばれるれど 望みもひとつ わざもひとつ
ひとつの御糧(みかて) 共に受けて ひとりの神を おがみたのむ
- 3 数多(さわ)の争い み民を裂き 世人(よびと)謗りて 悩むれども
神はたえざる 祈りを聴き 涙にかえて 歌をたまわん
- 4 世に残る民 去りし民と ともに交わり 神をあおぎ
とわの安きを 待ち望みて 君(きみ)の来ますを せつに祈る アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。**アーメン**

後奏